病院薬剤師が医薬情報担当者(MR)に望むこと 国立大学法人附属病院におけるアンケート調査

山本雅人*, 鍋島俊隆

名古屋大学大学院医学系研究科 医療薬学・医学部附属病院薬剤部

Hospital Pharmacists' Expectations of Pharmaceutical Company Medical Representatives

Masato Yamamoto*, Toshitaka Nabeshima

Department of Neuropsychopharmacology and Hospital Pharmacy,
Nagoya University Graduate School of Medicine

[Received December 12, 2005]
[Accepted August 28, 2006]

Hospital pharmacists' expectations of the medical representatives (MRs) of pharmaceutical companies have been increasing as their work has become more sophisticated and diversified in recent years. Since only a limited amount of information on the expectations of MRs is available, we conducted a questionnaire survey of hospital pharmacists. The questionnaire was sent to 42 national university hospitals, and 104 pharmacists from 22 hospitals responded. According to the results, much used drug information provided by MRs included safety information (78.8%), instruction on use (73.1%), and that on drug interactions contraindications (63.5%) and effectiveness (62.5%). Seventy-six percent of the pharmacists responding considered that drug information provided by MRs was reliable.

In the future, they said they would like MRs to provide information as fast as possible using information technology. They also said they would like MRs to provide more tailor-made information. Only 13.5% of the pharmacists felt that MRs fed back their requests concerning drug development to pharmaceutical company research laboratories. It is therefore necessary to find ways of improving such feedback as soon as possible.

Key words — questionnaire, hospital pharmacists, needs, MR, drug information

緒 言

人口の高齢化や医療技術の高度化などに伴う医療の変革とともに、薬剤師を取り巻く環境はこの数年間で大きく変化してきた。医療現場において病院薬剤師業務は調剤室からベッドサイドへと転換し、また薬に関するリスクマネージャーとしてその業務は多様化・高度化し^{1,2)}、薬剤業務を基盤とした研究も進んでいる³⁻⁵⁾。このような背景の中で病院薬剤師は、医療チームの一員として医療現場のさまざまな問題を解決することが求められている。これにともない、製薬企業の医薬情報担当者(MR)に対する病院薬剤師の要望も増加していると思われる。これまでに、1施設でMRによる医薬品情報提供の実態調査とその問題点について調査した報告例があ

る⁶⁾。しかし、MRの活動に対する病院薬剤師の要望について全国的に調査し、検討した報告はない。

そこで、今回、製薬企業のMRに国立大学法人附属病院の病院薬剤師が要望していることをフィードバックする目的で、テーマを「医療現場がMRに望むこと」としたアンケート調査を実施したので、その結果を報告する。

方 法

国立大学病院42施設に対して、2005年1月にアンケート用紙を送付し、返送をお願いした。アンケート用紙はA4版の3枚で計10個の設問を用意した。薬剤部内の各部署の意見を取り入れることを考慮し、各施設5名に回答してもらうこととした。回答方法は、設問1. 2. 4

* 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65番地 ; 65, Tsuruma-cho, Showa-ku, Nagoya-shi, Aichi, 466-8560 Japan

が選択式，設問 3. 5. 6. 7. 10 が記述式，8. 9. 10 が選択式と記述式を併用し，無記名にて行ったアンケートの内容を Table 1 に示す。

結 果

1. 回収率

アンケートは，42施設：210名中22施設：104名から回答が得られた。回収率は，自施設5名を含め49.5%であった。回答を得た施設の病床数は，500～799床が58.7%，800～999床が26.9%，1000床以上が14.4%であった。

2. 回答者の背景

回答者の実務経験年数は，20年以上～30年未満が35.6%と最も多く，次いで10年以上～20年未満が32.7%，10年未満が20.2%，30年以上が6.7%，無回答が4.8%であった。従事している業務については，医薬品情報業務が16.3%，製剤業務16.3%，調剤業務が

15.4%，治験管理業務11.5%，薬剤管理指導業務9.6%，麻薬業務6.7%，その他20.2%，無回答3.8%であった。

3. MR による情報提供について

どのような医薬品情報が利用されているか

MR により提供される情報の中で，よく利用されている医薬品情報としては，安全性に関する情報(78.8%)，使用上の注意に関する情報(73.1%)，相互作用・禁忌に関する情報(63.5%)，有効性に関する情報(62.5%)が上位を占めた(Fig. 1)。次によく利用されている医薬品情報を業務別に分けて比較すると，安全性に関する情報については，治験管理業務を除いたどの部署の薬剤師もよく利用していた。また，特に1)使用上の注意については，製剤業務および調剤業務，2)相互作用・禁忌に関する情報については，医薬品情報業務および調剤業務，3)有効性に関する情報については，医薬品情報業務，製剤業務および調剤業務に従事している薬剤師がよく利用していた(Fig. 2)。また，MR から得られる医薬品情報の信頼度について病院薬剤師の評価は，比較的信

Table 1. アンケート内容(要約して記載)

1. MRによる医療情報を利用するのはどのような場合ですか？
(該当するもの全てに○印を記入して下さい。)
1. 有効性 2. 安全性 3. 薬剤相互作用と禁忌の情報 4. 使用上の注意に関する情報
5. 服薬指導に関する情報 6. 類似医薬品の比較情報 7. 診断・治療のガイドラインに関する情報
8. 疾患に関する情報 9. 新薬開発状況 10. 新しいエビデンスに関する情報
11. 講演会・研究会に関する情報 12. その他()
2. MRから得られる医薬品情報の信頼度についてどのように評価していますか？
(該当箇所に○印を記入して下さい。)
1. 非常に信頼できる 2. かなり信頼できる 3. 比較的信頼できる 4. どちらともいえない
5. あまり信頼できない 6. ほとんど信頼できない
3. 近年の情報技術(Information Technology:IT)の進展の中で、今後MRにはどのようなことを期待しますか？
4. 今後、MRはどのような領域に重点を置いて学習すべきだと考えますか？
(該当箇所に○印を記入して下さい。複数回答可)
1. 薬理・臨床薬学的な知識、2. 薬物動態など薬理的な知識、3. 疾病の知識、4. 市販後調査に関する知識、
5. EBMに関する知識、6. 臨床医学に関する知識、7. 医療経済学に関する知識、8. 薬剤疫学に関する知識、
9. 臨床検査に関する知識、10. 分子生物学・分子遺伝学など最新の知識、11. 医療関係法規、その他()
5. 専門領域別MRについて
MRが専門領域別となって良い点は？
MRが専門領域別となって不都合な点は？
6. MRに対する要望はありますか？ 要望事項、要望する理由を記入して下さい。
7. MRに対して改善して欲しい点はありますか？ 改善して欲しい点、理由を記入して下さい。
8. MRの行動に関して不都合と感じている部分は何ですか？
(該当箇所に○印を記載して下さい。複数回答可)
1. 面談スキル・プレゼンテーションスキルが不十分である、2. 依頼事項に対する対応が遅い、3. 院内のルールが守られない、4. 訪問回数が多すぎる、5. 訪問回数が少なすぎる、6. その他()
その原因はどこにあると考えていますか？
9. 医療現場のニーズを収集するため、貴院においてMRが行っている活動はありますか？ ある ない
(活動がある場合、具体的に記載を求めた。)
10. 医療現場のニーズを製薬企業の研究・開発に反映させるため、今後MRは何をすべきだと思いますか？

Fig. 1. どのような医薬品情報が利用されているか

Fig. 2. どのような医薬品情報が利用されているか(業務別)

A: 医薬品情報業務, B: 製剤業務, C: 調剤業務, D: 治験
管理業務, E: 薬剤管理指導業務, F: 麻薬業務

頼できる(46.2%)が最も多く、次いでかなり信頼できる(29.8%), どちらともいえない(12.5%)の順であった(Fig. 3)。

4. 近年のIT(Information Technology)の進展の中で、今後MRに期待すること

病院薬剤師が今後MRに期待することとしては、①PDA等の携帯情報端末を利用した迅速な情報提供(15.4%), ②電子メールを利用した情報提供(9.6%), 電子媒体による情報提供(7.7%), 個々の症例や要求に合わせた情報提供(7.7%)などが挙げられた。

5. 今後、MRが重点を置いて学習すべき領域

今後、MRが重点を置いて学習すべき領域として病院薬剤師が期待しているのは、①EBMに関する知識(63.5%), ②薬理・臨床薬学的な知識(62.5%), ③薬物動態など薬学的な知識(55.8%), 市販後調査に関する知識(44.2%)が上位を占めた(Fig. 4)。

Fig. 3. MR から得られる医薬品情報の信頼度

Fig. 4. 今後、MRが重点を置いて学習すべき領域

6. 専門領域別MRについて

専門領域別MRの良い点としては、①担当領域についてより専門的な詳しい情報が入手できる(51.0%), ②担当領域についての的確な回答が得られる(15.4%), ③担当領域について迅速な回答が得られる(7.7%)などが挙げられた(Fig. 5-A)。一方、専門領域別MRの悪い点としては、①専門領域外の薬剤については十分な回答が得られない(16.3%), ②各専門領域別MRがどの領域を担当しているか把握しにくい(12.5%), ③専門領域外の質問事項に対して対応が遅れる(11.5%)などが挙げられた(Fig. 5-B)。

7. MRに対する要望

MRに対する病院薬剤師の要望事項をTable 2に示した。医師に情報提供する際、担当薬剤師についても医師と同様の情報を提供することや新薬でない医薬品においても新しい詳細な情報を提供することを要望する意見があった。その他、医薬品の開発経緯、医療保険上の適正使用に関する情報、製造中止・販売中止に関する情報や時間外問い合わせの対応を充実することを求める要望があった。

8. MRに対して改善してほしい点

MRに対して改善してほしい点としては、①訪問に関する要望(10.6%), ②問い合わせに対する対応を速くしてほしい(3.8%)などがあった。訪問に関する要望としては、①アポイントを取って訪問してほしい、②職場の実情に合わせて訪問してほしいなどが挙げられた。

9. 不都合と感じているMRの行動について

不都合と感じているMRの行動としては、依頼事項に対する対応が遅いが36.5%と最も多く、次いで訪問回数が少なすぎる(24%), 面談スキル・プレゼンテーションスキルが不十分である(19.2%)の順であった(Fig. 6)。依頼事項に対する対応が遅い原因としては、社内の連絡体制が不十分である、MR一人あたりの問い合わせ件数の増加などが挙げられた。また、訪問回数が少なすぎるについては人員不足、面談スキル・プレゼンテーションスキルが不十分であるについては社内教育が不十分であるとの回答が多かった。

10. 医療現場のニーズを収集するため、MRが行っている活動

医療現場のニーズを収集するため、MRが行っている活動があると13.5%の薬剤師が回答した。活動内容としては、①病棟薬剤師に対する聞き取り、②MR訪問時のアンケート、③研究所見学および意見交換などがあつた。

Fig. 5. A：専門領域別 MR の良い点，B：専門領域別 MR の悪い点

Table 2. MR に対する要望事項 (複数回答があったもの)

- ・ 重要な情報や新しい情報を医師に提供する場合、その診療科を担当する薬剤師にも情報提供してほしい。(4)
- ・ 発売から長い期間が経過している医薬品においても新たな情報を細かく提供してほしい。(3)
- ・ 現在使用されている薬剤の問題点を明確にしたいので、医薬品の開発経緯なども教えてほしい。(2)
- ・ 保険上の情報があまりないため、医療保険上の適正使用に関する情報を提供してほしい。(2)
- ・ 在庫管理上の手続きをスムーズに行うため、製造中止・販売中止が決定したら、即連絡をしてほしい。(2)
- ・ 平日・休日を問わず医薬品に関わる問題点は発生するため、時間外の問い合わせの対応を充実してほしい。(2)

(), 回答者数

11. 医療現場のニーズを製薬企業の研究・開発に反映させるため、MR がすべきこと

医療現場のニーズを反映させるため、MR がすべきこととしては、①積極的に医療現場のニーズを収集する(25.0%)、②市販後調査を充実する(3.8%)などがあつた。また、ニーズを収集する方法としては、①製薬企業側で医療現場のニーズを収集・検討するシステムを構築する、②アンケート調査を行う、③医師や薬剤師だけでなく、他のコメディカルのニーズについても収集するなどが挙げられた。

考 察

MR に対する病院薬剤師の要望を明らかにするため、アンケート形式による調査を行った。

MR により提供される情報の中で、よく利用されている医薬品情報としては、安全性、使用上の注意、相互作用・禁忌、有効性に関する情報が上位を占めた。近年、情報技術 IT の急速な進展・普及により、インターネットの利用など医療に関する情報を入手しやすい環境整備が進んできたが、安全性、使用上の注意、相互作用・禁忌、有効性に関する情報については、MR による双方向性のニーズに合った情報を期待していることが伺えた。

Fig. 6. 不都合と感じている MR の行動

また、よく利用されている情報は、従事している業務によって異なっていたことから、MR に対しては、従事している業務に合わせてより現場のニーズにあった医薬品情報を期待する。一方、MR から得られる医薬品情報の信頼度については、「比較的信頼できる」および「かなり信頼できる」という回答が合わせて76%を占め、病院薬剤師はMRによる情報提供を高く評価していることが示唆された。このことは、1997年からMR資格認定制度が導入され、MRの医学・薬学の基礎知識が豊富になるなどMRの資質が向上していることを反映していると考えられた。

ITの進展の中で、今後MRに期待することとしては、PDA等の携帯情報端末を利用した迅速な情報提供、電子メールを利用した情報提供、電子媒体による情報提供などITを積極的に利用した情報提供を望んでいた。一方で、個々の症例や要求に合わせた情報提供の要望が多かったことは、1)日常の医療現場で必要となる患者個々の病態や症状などに応じた薬剤の選択や服薬指導に必要な個別の情報は、インターネットでは入手が難しいこと、2)情報の絶対量が増える中で、多忙な病院薬剤師が情報を加工する時間を確保することが難しいなどが背景にあると考えられた。

今後、MRが重点を置いて学習すべき領域としては、EBM、薬理学、臨床薬学、薬剤学に関する知識が上位を占めた。これらは、1)インフォームド・コンセントを重視した患者中心の医療が進む中で、患者の納得を得るために病院薬剤師は、最新のガイドライン、科学的根拠に基づいた治療方針を習得する必要があること、2)薬理作用の強い医薬品が増加していること、3)QOLの向上や服薬コンプライアンスの改善を目指した利便性の高い製剤の開発が進んでいることから、MRによる情報の補完が望まれていると考えられる。

専門化・高度化する医療に対応する手段として、MRの領域別専任制を導入する製薬企業が増加している。専

門領域別MRについては、担当領域についてより専門的な詳しい情報を迅速に入手できると評価している。一方、専門領域外の質問事項に対しては、十分な回答が得られないことや対応が遅れることなどの指摘があり、今後の改善が望まれる。

MRに対する要望については、医師に情報提供する際、担当薬剤師についても医師と同様の情報提供を望む声や新薬でない医薬品においても新しい詳細な情報提供を望む声がある。MRによる医薬品情報提供の問題点として、MRの医局への訪問が薬剤部の訪問に比べ圧倒的に多いことやMRの学術活動が新規医薬品のプロモーションに偏っていることが報告されている⁷⁾。チーム医療が進む中で、病院薬剤師は他の医療従事者と情報を共有し、積極的に薬物治療に参加することが求められている。MRには、この点を考慮した情報提供活動を期待する。

MRに対して改善してほしい点としては、訪問に関する要望が最も多かった。MRは訪問に際しては、アポイントを取ってから訪問する、職場の実情に合わせて訪問するなど行動を改善することが望まれる。不都合と感じているMRの行動としては、依頼事項に対する対応の遅れが最も多かった。近年、薬剤師の病棟業務が定着し、日常診療の中で発生する医薬品に関する問い合わせについて薬剤師が迅速な回答を求められていることが多くなっていることを反映していると思われる。MRと学術情報部門との社内協力体制を充実させることやITを積極的に利用するなどしてより迅速な情報提供体制を構築することが望まれる。次いで多かった「訪問回数が少なすぎる」や「面談スキル・プレゼンテーションスキルが不十分である」については、製薬企業のバックアップ体制の充実や教育研修による面談スキルの強化が必要であると思われる。

MRの役割としては、医薬品情報を医療現場に提供するだけでなく、医療現場のニーズに関する情報を研究・開発部門にフィードバックすることも重要であると思わ

れる。しかし、医療現場のニーズを収集するため、MRが行っている活動があると回答した薬剤師は13.5%にすぎなかった。また、MRの活動内容としても、病棟薬剤師に対する聞き取り、MR訪問時のアンケートなど定期的に医療現場のニーズを収集する活動はなかった。このことから、MRによって医療現場のニーズは研究・開発部門に十分フィードバックされていないことが示唆された。医療現場と研究・開発部門の継続的な相互の情報交換が新薬や製剤等の開発に重要である。今回は、ニーズを収集する方法として具体的な回答は得られなかった。今後、病院薬剤師とMRは協力して医療現場のニーズを収集する方法について検討することが必要であると思われる。

以上のことから、病院薬剤師は、MRから得られる医薬品情報の信頼度を高く評価していることが示唆された。今後、MRがより質の高い情報提供を行うためには、インターネットでは収集が難しい個々の症例や病院薬剤師の要求に合わせた情報提供を行うこと、ITを積極的に利用し、より迅速な情報提供体制を構築することが必要であると思われる。

引用文献

- 1) 杉浦伸一, 鍋島俊隆, 【院内で広がる薬剤師職能 薬剤業務の新たな課題】集中治療室(ICU)における薬剤師の役割, 薬事, **45**, 35-40 (2003).
- 2) 松原和夫, 【院内で広がる薬剤師職能 薬剤業務の新たな課題】サテライトファーマシーにおける薬剤業務の展開, 薬事, **45**, 51-56 (2003).
- 3) T. Kuzuya, T. Kobayashi, N. Moriyama, T. Nagasaka, I. Yokoyama, K. Uchida, A. Nakao, T. Nabeshima. Amlodipine, but not MDR 1 polymorphisms, alters the pharmacokinetics of cyclosporine A in Japanese kidney transplant recipients, *Transplantation*, Sep 15, **76**, 865-868 (2003).
- 4) 福居篤子, 藤井隆太, 砂田久一, えん下補助ゼリーの開発, 薬剤学, **60**, 62-70 (2000).
- 5) 乾賢一, どうすれば薬剤師の専門性を薬物療法に活かせるか, 日本病院薬剤師会雑誌, **39**, 417-421 (2003).
- 6) 室井寿子, 須藤充子, 氏原淳, 町田充, 厚田幸一郎, 医薬情報担当者 Medical Representative(MR)による医薬品情報提供の実態調査とその問題点の抽出, 日本病院薬剤師会雑誌, **39**, 291-294 (2003).
- 7) 財団法人医薬情報担当者教育センター「MR認定制度」調査報告, 平成13年3月.